

公益財団法人網走監獄保存財団/博物館網走監獄

令和2年度事業計画(案)について

令和2年度収支予算(案)について

説明資料:令和2年度主要事業の概要

1 重要文化財の保存と価値を高める活用を図る

博物館網走監獄において保存公開している建造物の2件8棟が国の重要文化財に指定され4年が経過しました。重文指定から2ヶ月後の4月熊本地震が発生し重要文化財の損壊が起き、熊本城が甚大な被害を受けました。その教訓を生かし当館も平成29年4月から3年間の耐震専門診断事業に着手しました。

国、北海道、網走市の補助金を頂き進めた事業も令和2年3月で無事に終わることができました。課題の多い診断結果となりましたが、重要文化財を保存する博物館として真摯に受け止めこの課題に取り組んでまいります。

また政府は、2018年「経済財政運営と改革の基本方針」を閣議決定し、文化芸術立国の推進を掲げると共に、文化芸術、観光、産業が一体となって新たな価値を創出する「稼ぐ文化」へ展開という骨太の方針が打ち出されています。

まさに、網走監獄の重要文化財は稼ぐ文化財としてその先導的な役割を果たしてまいりました。この貴重な「稼ぐ文化財」を永く安全に保存活用していくことを最重要課題として耐震補強計画を策定し補強工事に向けて準備を進めてまいります。

(1) 防災グッズの備蓄 事業

重要文化財建造物を災害から守り、最小限に被害を食い止めるには48時間の対応が非常に重要と提唱されています。災害発生から48時間で文化財建造物や来館者を 守る最低限の防災対策グッズの備蓄が必要となります。数年かけて備蓄倉庫、備蓄品を収納する検討に入ります。今年度は発電機1台、防塵マスクなど整えます。最終年度である本年は木造舎房の構造耐震実験を行います。

・新規事業	予算額	支出 500千円 (支出科目:器具費)
-------	-----	------------------------

(2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立 事業

重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、1月26日の重要文化財防災デーには網走消防署、呼人消防団にご協力を仰ぎ、放水や避難誘導などの防災訓練を引き続き実施する予定です。今年度は、網走消防署からの指導により、重要文化財の庁舎、二見ヶ岡農場内に自動火災報知器を追加いたします。重要文化財の棟数ごとに設置義務があり、それに準拠するかたちでの追加となります。

(自動火災報知機増設は、「3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る」の項にて詳細説明。

(3) 耐震補強計画への取り組み

耐震補強案作成と工事実施に向けて、事業時期、工期、特別積立金などの計画作成に取り掛かります。重要文化財4棟の耐震補強実施は、20億を超える事業となります。覚悟のいる事業となりますので慎重かつ緻密に予算編成を行ってまいります。

予算額	支出 200千円 (支出科目:旅費)
-----	-----------------------

2 充実した博物館の運営を図る

今後定住人口が減少していく日本では、交流人口を増やすことが極めて重要になってきています。

このような中、博物館網走監獄も安定した来館者の確保に向けて、博物館固有の魅力を発掘し、その魅力を資源として様々なメディアを通じて発信していくことが、博物館運営にとって重要な施策となっていきます。

日本の博物館利用者総数は3億人以上と言われる今日においても、単なる古い「過去の物」を展示しているだけでなく、訪れる人々の琴線に触れることのできる歴史的遺産(ヘリテージツーリズム)の価値を創出し、付加価値をつけてご覧いただけるよう博物館の全てのコンテンツを再点検し、当館の最終目標であるユニバーサルミュージアムを目指し博物館活動を進めてまいります。

(1) 博物館社会教育事業

① 体験講座、ワークショップの開催 事業

新年度の物作り体験講座は、自然豊かな環境を活用した講座と、過去から伝わる伝統行事の伝承をテーマにした体験講座、昔の道具資料を使用する体験講座を企画しました。

春の体験講座「吊るし雛を作ろう」「鬼の面を作ろう」、夏休み体験講座「梅の枝で草木染」「経木で扇子を作ろう」、秋の体験講座「監獄の落ち葉でハーバリウム作り」「炭火アイロンでアイロンビーズ作り」、冬休み体験講座「軟石でクリスマスオーナメント作り」「しめ縄作り」「菰編み機でコースター作り」の9講座を実施し幅広い年代が楽しく参加できるメニューで講座を進めます。

・継続事業

予算額

250千円

(支出科目:臨時雇用賃金、広報費、教育普及費、諸謝費)

② 農園体験ワークショップの開催 事業

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から11月まで9講座開催し、種植え、肥料除草管理、収穫、調理加工実習と一連の作業で自給自足を実践させる目的で行います。今年度は白花豆、とうもろこし、かぼちゃ、大豆を生産、大豆は味噌に加工し、とうもろこしは、二見湖畔神社祭りに来館されるお客様に提供します。

・継続事業

予算額

470千円

(支出科目:臨時雇用賃金、広報費、保険費、教育普及費)

③ 看守長屋の年中行事 事業

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を利用し、日本の古き伝統行事を博物館に来館される全ての人を対象に、体感してもらうものであり、春のお雛様祭り、五月端午の節句、夏の七夕、秋の十五夜、年末鏡餅作り、正月七草、鏡開き、節分行事と季節の移ろいと日本人の知恵と地方独自の風習を紹介するイベントとし誰でも気軽に参加できる形式で行います。

この事業は、近年増加傾向が続いている海外からの入館者に好評で、海外の方が想像する日本らしさを演出できるよう企画してまいります。

・継続事業

予算額

300千円

(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

④ 季節イベントの開催 事業

ゴールデンウィークに実施するイベントは、家族で参加楽しめるように 10 個のスタンプを巡る「重要文化財スタンプラリー」「餅つきと柏餅のプレゼント」「伝統遊具作り 竹とんぼ・竹笛」、網走刑務所で作られていた「豆わらじ作り」「木でカスタネット作り」の実施します。

9 月、秋のシルバーウィーク期間には二見湖畔神社収穫祭を開催、網走刑務所三眺神輿を網走無窮会の皆様が担ぎ廻る演出や、地元保存会の皆様に「豊郷神楽」を舞って頂くなど地域の祭りに特化した催しの開催、縁日には「手打ちそばの実演と試食」友の会による紙芝居の上演、鯛焼きなどの屋台で懐かしい刑務所の収穫祭を再現いたします。イベントを通じて、博物館網走監獄での思い出や体験が博物館固有の資源として認識され観光拠点としての役割も果たせるよう進めてまいります。

・継続事業
予算額 1,350千円
(支出科目:臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費、諸謝費)

(2) 企画展開催、講演会開催 事業

① 「矯正を支える人 教誨師の活動」展

4 月から7月末まで開催します。新法制定から 15 年、刑務所の運営も刑罰の執行施設から矯正施設へと変わりつつある現状において矯正を支え再犯防止のために尽力されている教誨師に光をあてる企画とします。

② 「網走刑務所開設 130 年～刑務所の今」展

8 月から 12 月までは、網走刑務所が明治 23 年に開設されて今年 130 年の節目の年を迎えます。その記念に「網走刑務所開設 130 年～刑務所の今」展を開催いたします。現在の新しい刑務所は矯正教育、再犯防止に取り組み、収容者の人権にも配慮し運営されています。そのような現状を管理する刑務官立場からの展示資料として制服、装備品、階級章、収容者の側の資料である衣類、作業委、室内衣や自弁品の展示、網走刑務所施設 紹介ビデオと共に開催します。

③ 開館記念講演会事業

7 月 6 日の博物館開館記念行事として記念講演会を開催いたします。開設 130 年を迎える網走刑務所から、畠山武所長を講師に「網走刑務所の現状」をご講演頂きます。網走市民に向けて講演会だけでなく博物館見学も含め広報活動として実施いたします。

・継続事業
予算額 700千円
(支出科目:旅費、器具費、教育普及費、印刷製本費)

(3)友の会への助成

① 博物館網走監獄友の会助成 事業

友の会は、監獄に興味のある方、並びに博物館を支えるサポーターとして 12 年前に発足し、現在団体会員 10 団体、個人会員 49 名が入会されています。

今年の 6 月 30 日に開催される北海道博物館大会において、博物館網走監獄友の会の活動が表彰されることに決まりました。博物館網走監獄にボランティア活動を通じて多大なる貢献をしたことが受賞理由です。輝かしい受賞は、友の会会員にとっても、博物館網走監獄にとっても名誉なことです。表彰式は土別市で行われます。

新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて会員それぞれの得意分野を活用し、博物館展示解説活動、イベントスタッフ、体験講座のアシストとして支援頂きます。

また新年度事業は、二見桜並木観桜会、中央道路開削慰霊碑清掃活動、記念講演会、建物見守り隊活動、北海道初白老に開設される国立博物館「ウポポイ」の研修バス旅行の実施など会員各自のレベルアップを目標に高齢化社会に向けて高齢者が生きがいを持って社会参加できるモデル例となるような活力ある友の会活動を進めてまいります。

・継続事業 予算額 250 千円
(支出科目:負担金)

② 『二見桜並木と古道をまもりそだてる会』助成 事業

二見桜並木の保護、啓蒙活動は次第に実を結びつつあります。新年度も網走刑務所に桜の開花時期に並木部分の一般市民開放をお願いしますが、公開時の臨時駐車場安全管理のため警備を外部委託するほか、秋の並木内下草刈り作業外部委託など費用助成を実施します。

・継続事業 予算額 240千円
(支出科目:植栽雑費、雑費)

(4)多言語化事業

・再現建造物内展示説明更新 事業

訪日外国人入館者数が年間、約 3 万 5 千人にのぼる現状において、日本人の来館者同様に 博物館展示の理解を深め博物館の満足度を高めて頂くツールとして、言葉の障壁を取り除くことは重要です。今年度においても、平成 24 年に設置した重要文化財旧網走刑務所二見支所及び旧網走監獄舎房及び中央見張り所内部に設置した展示説明看板多言語化看板故障のため LED 内蔵照明ディスプレイに 5 台更新いたします。

・継続事業 予算額 700千円
(支出科目:固定資産取得:展示備品)

※農展示説明看板更新積立金 700 千円取崩しで対応

3 展示建造物の維持管理並びに館内の環境整備を図る

博物館網走監獄開館から36年目となり初期に整備された展示建造物及び博物館施設に老朽化が散見しているため改修に取組み、固定資産の延命化を進めます。社会教育施設として求められる博物館機能充実には既存施設の利用方法の検討、一部改修によりコスト削減を配慮して対応を進めてまいります。

(1) 文化財建造物の維持 事業

重要文化財「旧網走監獄舎房及び 中央見張り所」裏側のり面の雑木間伐作業を行ないます。建物防火及び腐朽防止対策として実施するものです。

新規事業 予算額 700千円
(支出科目:公益事業:植栽雑費)

(2) 再現展示建造物の維持 事業

移築建造物二見湖畔神社付属階段の改修を行ないます。

新規事業 予算額 220千円
(支出科目:公益事業:施設維持保持費)

(3) 博物館機能の充実 事業

① 監獄歴史館外壁修理塗装工事 建築から 37 年が経過し、コンクリート外壁に剥離の生じている建物修理及び再塗装工事を実施します。

新規事業 予算額 22,000千円
(支出科目:固定資産取得:建物取得)
※監獄歴史館外壁改修工事積立金 22,000 千円取崩して対応

② 屋外農場作業情景更新 屋外情景展示のマネキン人体の一部に破損著しいものがあり更新します。

新規事業 予算額 4,500千円
(支出科目:固定資産取得:展示備品取得)
※展示人形更新事業積立金 4,500 千円取崩して対応

③ 高圧受電設備改修 設備内のトランス及びヒューズの耐用年数を超過したものを交換します。

新規事業 予算額 870千円
(支出科目:公益事業:修繕費)

④ 総合管理棟自動ドア及び内部照明 LED 改修 建築より 29 年が経過した総合管理棟(財団事務所)自動ドアのモーター、センサー類の更新、および受付、事務室天井蛍光灯を LED 照明器具に更新します。

新規事業 予算額 1,830千円
(支出科目:公益事業:修繕費、施設維持保持費)

(4) 館内設備安全対策 事業

- ① 博物館開館時に設置した第一駐車場付属階段にひび割れが発生しているため修理し、安全対策としてゴムチップマット敷設を実施します。

新規事業 予算額 950千円
(支出科目:施設維持保持費)

- ② 第二駐車場停車枠・誘導ライン改修を行いません。

新規事業 予算額 1,042千円
(支出科目:施設維持保持費)

(5) 防災対策 事業

- ① 重要文化財建造物への自動火災報知設備設置及び増設 「旧網走監獄・庁舎」への自動火災報知設備(非常ベル・総合管理盤)設置、「旧網走刑務所二見刑務支所」内2棟(庁舎・炊場)への自動火災報知設備増設を実施します。文化財保護法の設置基準に適用するために行う作業です。

新規事業 予算額 1,255千円
(支出科目:施設維持保持費)

- ② 消防訓練の実施 職員の防災意識を高め不測の事態に備えると共に地域消防署、消防団との連携を進めるため今年度も総合防災訓練を1月26日「文化財防火デー」に実施します。

(5) 館内景観整備 事業

- ① 修景水路・池用水井戸内送水ポンプ更新 財団水源地内井戸の揚水ポンプが老朽化し更新を行います。

新規事業 予算額 2,500千円
(支出科目:固定資産取得:環境整備)

※揚水ポンプ更新積立金 2,500千円取崩しで対応

- ② 宿根草花壇整備 宿根草による景観整備に継続して取り組みます。地域フラワーマスター事業やボランティアとの連携を企画します。

継続事業 予算額 1,000千円
(支出科目:臨時雇用賃金、植栽雑費)

- ③ 敷地内緑地管理 館内草地除草作業を一部委託作業で実施します。

継続事業 予算額 450千円
(支出科目:植栽雑費)

- ④ 冬期除雪対策 駐車場除雪は引き続き委託作業で実施します。

継続事業 予算額 1,500千円
(支出科目:施設維持保持費)

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1.入館者の確保

令和元年度の博物館網走監獄入館者数は、263,000人程度(前年度末 242,214人比 8.6%程度増加)を見込みます。しかしながら1月、中国で発生した新型コロナウイルス流行の影響により2月以降、国内・海外共に利用者数減少が続いている状況にあります。

新型コロナウイルス蔓延の影響がどこまで続くのか不透明な状況にありますが、この状況下でも如何に、入館者を確保し続けていくかが新年度の大きな課題となります。

(1) 入館者、入館料収入の確保

新型コロナウイルス蔓延の影響からの脱却時期が不透明な状況にあり、好調な入館状況を維持することを目標とし、新年度有料入館者の目標を23万人、入館料収入を207百万円(ともに前年度予算比8%減)とします。@900円見込み

予算額 207,000千円

(収入科目:入館料収入)

(2) 海外観光客誘致を目的とした事業

国の海外観光客誘致政策に連動し、当館においても増加傾向のある海外個人型観光客(FIT)確保を主題として多言語化など受け入れ態勢の細かな整備、行政や地域観光団体と連携し海外向け情報発信対策を進めます。

①展示、誘導標識を含め多言語表示、国際共通サインへの切り替えを継続して進めます。

②網走市、地域連携団体等の実施する海外観光客誘致事業に連携協力し、海外メディアや旅行代理店、航空会社受入れへの協力や、海外キャンペーンへの参加などの対応を進めます。

(3) 個人型入館者誘致を目的とする情報発信 事業

特に個人型入館者誘致を目的とする情報発信手段としてインターネット・SNSの活用を推進します。

(4) マスコミメディア受け入れによる広報 事業

テレビ・雑誌等の取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV撮影等も積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことによりマスコミへの施設の露出頻度を高め、話題づくりを進めます。

2.収益事業の強化

新年度は入館者数減少も予想される状況ですが収益事業会計の運営は、細やかな対策を積み重ねることにより増収対策を進め、当初目的である公益 事業会計、法人事業会計への収入補填を行なうものとします。

(1) 収益事業会計の目標

物販、食堂、賃貸料収入等による収益事業会計の収入目標を 55,726 千円(前年度予算費7%減)とします。

- ① 物販事業は、話題づくりにも繋がる商品企画や取扱商品の再検討を進めるほか、入館者の利便向上と増収対策を進めます。
- ② 食堂事業は、広報対策や新メニュー企画開発などを進め利用者増加を図ります。
- ③ 物産館賃貸事業は、テナント入居者との連携を密にし、当財団が所有する登録商標『網走監獄』を使用する新しい商品開発など相互が健全な運営を行える環境整備を進めます。

予算額

59,960千円

(収入科目:物品売上収入、食堂売上収入、賃貸料収入、販売委託手数料)